



# Panasonic NPOサポートファンド 子ども分野 2012年助成事業

---

## 成果報告会

■助成事業名 「不登校の子どもたちの編集部  
と若者編集部の持続的発展に  
向けた組織基盤強化」

■助成団体名 NPO法人 全国不登校新聞社

2013年3月8日



# 新聞社のミッションと事業概要

## ミッション「不登校・ひきこもりの全面肯定」

### ■事業概要

事業名	役割	規模
新聞発行	情報発信、収益事業	1500部発行
WEB	情報発信、広報	年間16万人
編集部の運営	自己実現、紙面充実	48名

# 助成を受ける前の状況

## ■助成前の子ども若者編集部

- ・設立 1998年新聞創刊後、まもなく創設
- ・参加者数 毎回2人～6人程度
- ・企画本数 年6本～年12本

## ■問題点

- ・スタッフが片手間で支援
- ・子ども個人のスキルに依存
- ・企画の質量が安定しない





## 助成1年目「組織体制の整備と援助」

新たに実行したこと	役割・目的
実行委員会設置	運営全体を見渡す
交通費援助	子どもの活動支援
取材テキスト作成	ノウハウを紙で伝達
活動発表会の開催	本人の成果確認の場に

### ◎ 1年で目に見える成果が出る

編集部員            6人    →        20人  
企画本数            12本   →        24本

### ◎ 結論 「取材」は自己実現に優良なツール



## 助成2年目「組織基盤強化へ」

新たに実行したこと	役割・目的
専従スタッフ配置	物理的な時間の確保
事務局会議の設置	日常業務の円滑化
編集テキストの充実	スタートとゴールの明示化
SNSの導入	子どもらの日常交流

### ◎ 2年目も堅調に事業が活性化

**編集部員**     6人 → 20人 → 41人

**企画本数**   12本 → 24本 → 27本

**結論**        出番の明確化でエンパワメント



## 助成3年目「本質的な基盤強化へ」

### 3年目の目標「自立的な子ども若者編集部に」

新たに実行したこと	役割・目的
役割の創設	個々人の出番を明確にする
取材チーム制の徹底	個人の思いから社会への発信
サポート方針の徹底	「理念」「読者目線」「強み」の伝達

**編集部員**     6人 → 20人 → 53人 → 48人  
**企画本数** 12本 → 21本 → 27本 → 24本



# 子ども若者編集部環境変化

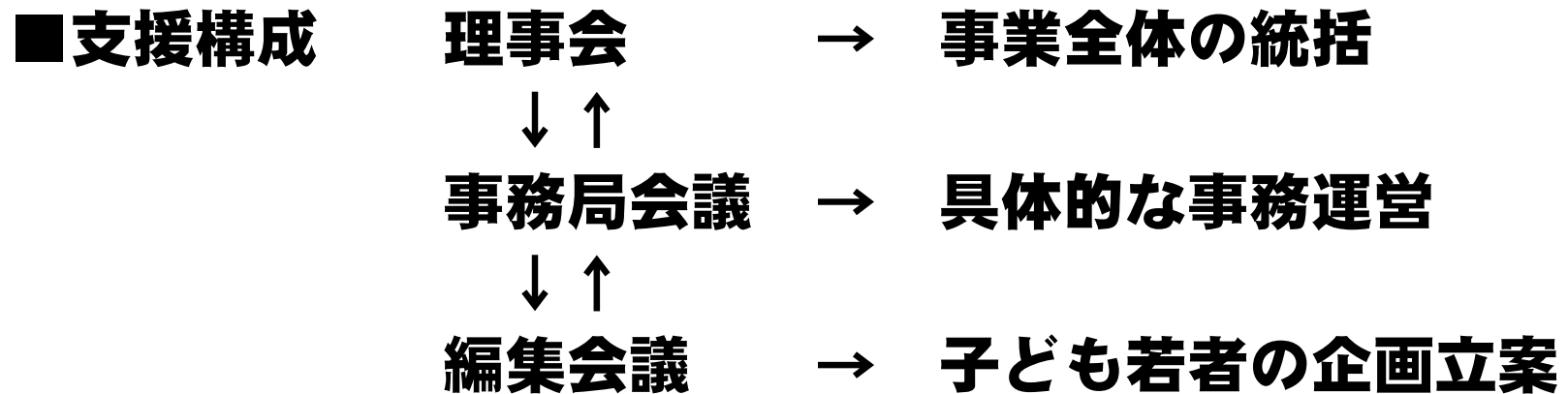
---

- 助成前の状況 → 個人相談→紙面化
- 現在の状況
  - 役割の細分化
    - 編集長（議長）
    - 企画担当（チーム制）
    - 発送担当
    - 広報部長
    - 読者アンケート係
    - SNS作成／管理者
  - テキスト作成 → 取材・執筆・編集のノウハウ書
  - 活動発表の定例化 → 年間成果のふり返り



## 子ども若者編集部環境変化②

---



- ◎ 子ども若者にとって、活躍できる場が明確になった
- ◎ 多人数でバランスの良い支援ができる





## 3年間の記事の特徴と変化

記事の特徴	子どもらの動機	サポートの姿勢
1年目 「西原理恵子に聞く」 「ちばてつやさんに聞く」	憧れの人に会える	「実現できるよ」
2年目 「柴田元幸さんに聞く」 「虚淵玄さんに聞く」	取材が楽しい いい取材がしたい	「悩んだことが財産に」
3年目 「不登校のカミングアウト」 「アルバイトの辞め方」 「新学期自殺を考える」	当事者に必要な 情報を発信したい	組織のミッション、 読者からの目線、 「強み」を伝える

# 3年間で何が強化されたのか

## ■編集

編集スタッフ2名

**当事者企画の充実**  
**情報欄作成**

## ■購読管理／発送

非常勤1名

**常勤職員の配置**  
**発送員の増加**

## ■広報

WEBの定期更新

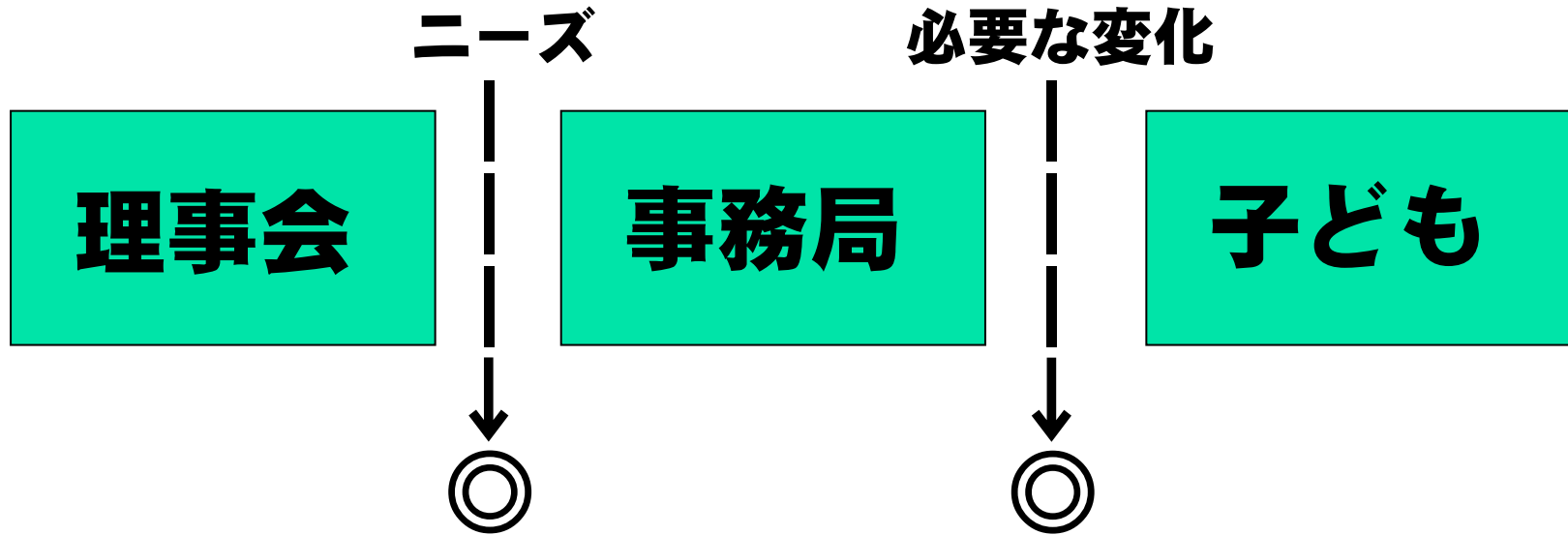
**新聞サンプル作成**  
**SNS作成／運営**

## ■ビジョン／事業戦略

**WEBマガジン作成**  
**読者オフ会の開催**  
**紙面での新企画**

基盤強化でビジョン／事業戦略に着手が可能になった

# 助成前の状態イメージ像

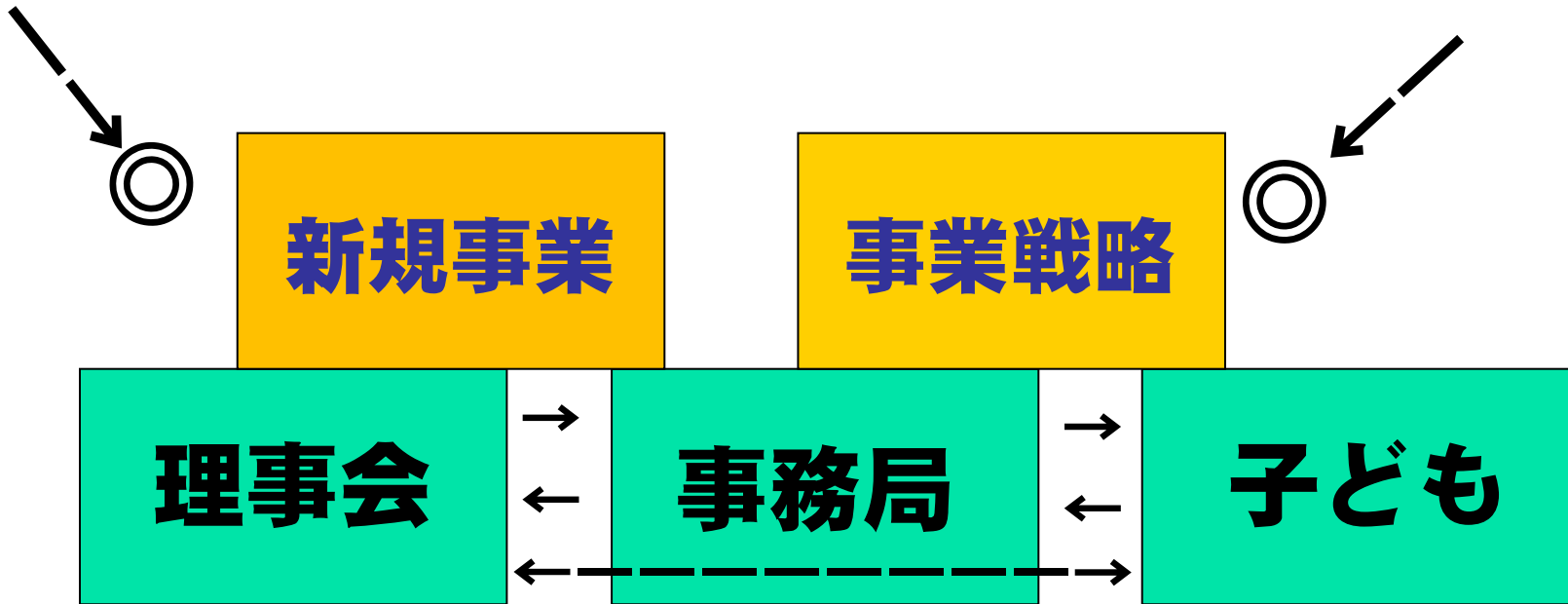


**理事、事務局、子どもがバラバラ**

**目の前の現実を追われ**

**ニーズや必要な変化が抜け落ちる**

# 助成後のイメージ像



子どもらの人材育成がされ  
三者がコミットメントし、相互補完  
必要な事業展開へ眼を向けられた